

事業報告（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

（1）事業の経過及びその成果

① 全般の状況

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症による国内景気の厳しい状況が緩和され社会経済活動が正常化に向かうなかで、当初事業計画としては新たな管理案件である交野市自転車駐車場（令和4年度開始）による収入増加等を見込み、営業収益28億2千4百万円（百万円未満切捨）といたしました。

二期連続赤字決算からの脱却を図る事業計画を遂行すると同時に経営安定化のため、駐車場個別の収益増や資金対策に取り組む一方、職員の賞与減額等のコスト削減を実行しました。

7月から9月にかけては、過去最大級の感染規模となった第7波の影響もあったものの、年末にかけて駐車場稼働率も徐々に回復に向かい、令和4年度の営業収益は当初事業計画を約9千百万円上回る29億1千5百万円、当期純利益は三期ぶりの黒字化（9千4百万円）となりました。

② 事業別概況

駐車場事業

令和4年度の駐車場需要は全般的に回復基調となり、ウィズコロナが浸透するなか、コロナ禍において大幅な駐車場利用者減少を受けた経験をふまえ、既存駐車場がそれぞれに抱える課題に取り組みました。

駐車場・駐輪場ともに、種別利用状況を分析し、お客様からの問い合わせ対応データとあわせて検討し、変化する周辺状況に応じた料金変更やキャッシュレス決済の導入、利用率を上げるための駐車スペース変更等、効果的な採算性の確保に取り組みました。

また、新規駐車場の開設を進め、令和4年度からは新たな公募事業（交野市自転車駐車場12場、新田辺駅東自転車駐車場）を受託することができました。

これら駐車場事業全体の採算性向上に努めたことにより、当該事業部門の営業収益は27億7千2百万円となりました。

排水機場事業

令和4年度は監視業務出動が17回であり、過去5年間の管理期間の中でも最小回数となりましたが、それに安心することなく、技術や知識の研鑽を行い、設備点検・施設の維持管理に取り組みました。また、安定した管理体制の確立に向けて、技術継承のための新たな人材を募集しました。

レンタル事業

これから京都市内の観光需要が伸びることが想定されることから、弊社の確かな収益の柱とするために、レンタサイクル部門の充実を図り、現状では現地（レンタサイクル取扱駐車場）でしか取扱いできない利用申込の方法を改め、24時間どこからでも申込可能なオンライン予約システムの構築に取り組みました（令和5年夏頃に導入予定）。令和5年度にはシステム稼働と同時に貸出自転車の台数を増やし大幅な収益増を図ります。

③ 企業価値向上に向けた取り組み

弊社は、持続可能な社会の構築に向けた社会貢献として、事業全体を通じて環境と景観に配慮した活動を行っています。

京都に本社を置く企業として、駐車場緑化を通じての「京（みやこ）のみどりの駐車場パートナー制度」に基づく緑化推進に取り組み、令和4年度は京都市緑の基本計画について微力ながらも協賛として弊社が管理する富永町深尾駐車場の一部緑化を実施しました。

また、太陽光発電設備を利用した自然エネルギーの活用等、環境活動にも継続して取り組んでいます。コロナ禍の影響で、これまでは十分に実施できなかった事業（地元との連携や地域行事

への協賛等)についても、企業価値向上を目指して積極的に展開していくほか、行政の放置自転車対策への参加(大阪市サイクルサポーター/放置自転車等啓発指導員制度)等、社会貢献を通じた企業の存在意義のため引き続き取り組みます。

(2) 設備投資の状況

令和4年度は、新規駐車場・駐輪場の開設のために必要な駐車機器、看板、舗装等に加え、駐車料金精算機のIC対応化、駐車場自動満空切替設定、出庫灯設置等、合わせて約4千万円を投資しました。

(3) 資産及び損益の状況の推移

	(単位 百万円)		
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
営業収益 ※	2,128	2,464	2,915
当期純利益	△231	△139	94
正味財産	1,534	1,395	1,489
資産合計(総資産)	2,382	2,200	2,336

(※令和2年度及び令和3年度は経常収益)

(4) 対処すべき課題

① 事業計画に影響する要素への対応

令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が感染症法上の「5類感染症」に位置付けられ、社会経済の持ち直しの動きとともに、駐車場業界においても全体的に収益は上向きとなることが期待されます。その一方で、いまだ平和的解決に至らないウクライナ情勢、世界的な原材料価格の高騰やエネルギー供給の問題等、光熱費をはじめ各種経費の大幅な負担増として弊社事業計画に影響し得る要素を注視し、中期計画の策定を含め、安定した経営基盤を確立します。

② 社会貢献

社会貢献(地域との協調)と環境への配慮等、企業としての社会的な存在意義であるCSR活動にも積極的に取り組んでまいります。弊社は、中長期的に安定した経営基盤を確立させることを念頭に企業価値を高め、外的要素にも柔軟かつ十分に対応していける企業を目指します。

③ 顧客満足度及び品質向上

駐車場ひとつひとつの特性を把握したサービス提供を意識することで駐車場の品質向上を目指し、顧客管理システム刷新、駐車場周辺の潜在需要の開拓に注力します。

④ 内部統制及びガバナンスの強化

お客様、取引先、地元社会、従業員等を含むステークホルダーの皆様との良好な関係維持に向けて、自律的なコーポレート・ガバナンスの強化充実に取り組んでまいります。

(5) 総合職の状況(令和5年3月31日現在)

人数	前年度比(増減)	平均年齢	平均勤続年数
35名	2名減	45歳	18年3月

貸借対照表

令和5年3月31日 現在

(単位 円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
I 流動資産		I 流動負債	
現金	95,208,280	預り金	27,063,300
小口現金	175,847	未払退職金	0
当座預金	62,955,665	未払金	113,776,128
普通預金	372,757,099	未払費用	18,494,684
定期預金	100,000,000	未払消費税等	50,758,400
未収金	163,286,196	未払法人税等	660,000
立替金	11,745,714	賞与引当金	25,613,000
貯蔵品	1,496,914	前受金	1,369,885
前払金	51,628,217	II 固定負債	
仮払税金	97,167	長期借入金	344,000,000
II 固定資産		長期前受金	76,005
1 基本財産		退職給付引当金	265,159,350
投資有価証券	11,000,000	負債の部 合計	846,970,752
2 特定資産		正味財産の部	
退職給付引当資産	265,159,350	I 指定正味財産	2,200,000
3 その他固定資産		II 一般正味財産	1,487,309,957
土地	730,987,801		
建物	159,595,542		
建物附属設備	941,469		
構築物	138,532,658		
機械及び装置	19,438,267		
什器備品	72,359,389		
車両運搬具	411,533		
一括償却資産	2,040,121		
電話加入権	2,471,836		
ソフトウェア	2,871,717		
投資有価証券	29,422,750		
長期前払費用	1,020,139		
保証金	40,877,038	正味財産の部 合計	1,489,509,957
資産の部 合計	2,336,480,709	負債及び正味財産 合計	2,336,480,709

損 益 計 算 書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位 円)

科 目	金 額	
I 営業収益		
事業収入	2,883,411,221	
事業付随収入	31,687,529	2,915,098,750
II 営業費用		
事業費	2,290,112,256	
管理費	553,771,407	2,843,883,663
営業利益		71,215,087
III 営業外収益		
財産貸付収入	9,600,000	
受取利息	582,419	
雑収益	50,137,330	60,319,749
IV 営業外費用		
支払利息	1,603,211	
寄附金	206,325	
雑損失	0	1,809,536
経常利益		129,725,300
V 特別損失		
固定資産処分損		34,821,865
税引前当期純利益		94,903,435
法人税等		660,000
当期純利益		94,243,435